

農の名匠 選定

全国有数の農業地帯、愛知県豊橋市の農家有志らが、同市を管めた東三河地方で優れた作物を栽培する生産者百人を選挙するグループ「豊橋百傑人」を立ち上げた。工業製品と比べ、技術で横並びになりがちな農家のレベルアップが目的。インターネットを使って、登録された生産者による農産品の全国販売を目指すしており、安心・安全な作物への関心が高まる中、「農家のスーパースターたち」の存在をアピールする。

「豊橋百傑人」立ち上げ

豊橋百傑人は、皮まで食べられる無農薬レモンの栽培で知られる河合尚樹さん(58)と豊橋市中原町一と、知人のウェブ制作会社「総デザイン」(同市)社長の清水貴裕さん(56)が中心となって発足させた。

グループ名の「傑」は誤読みで「わし」と読めることから取った。昔は「わし」と自分を呼んでいた農家の古者が周囲から一目置かれていたのに対し、河合さんらは「現代では農家が軽

視されている」と感じており、業規範)の認証を得たハーブと人々の生活を支える農産物の誇りを、柿の名農家と、化学肥料を使わずをアピールする農家を込めたことではない茶の三人が登録された。

百傑人には河合さんのほか、減農薬などに取り組んだ結果、や消費者と直接交渉せず、農協東海三河では個人として初めてを通じて出荷するのが一般的で「GAP」(日本版認証農産物)で、価格差が少なく、農家間で

栽培技術をめぐって競争力が生まれていくとされる。工業分野の職人が中心の「現代の名工」のような生産者をたてる制度も少なく、豊橋百傑人によって農家の地位向上にも役立てたい考えだ。

現在の百傑人メンバーが他の作物を育てる生産者に参加を呼びかけ、本年度中に登録者数を十人に増やしたい考え。一作物一農家が基本だが、複数人になった場合は、作物を購入した消費者からのアンケートを基に序列を付け、競争をおおる。

すでに開設されているホームページで各農家の所在地や作物、おいしい作物づくりに向けたい取り組みを掲載するための準備を進めており、一年以内のネット販売を開始する方針。河合さんは「豊橋には埋もれているプロがたくさんいる。全国に『豊橋の農家はすごいんだぞ』と発信したい」と意気込んでい

皮も食べられるレモン/化学肥料使わない茶



「豊橋百傑人」を立ち上げたレモン農家の河合尚樹さん(左)と清水貴裕さん(右)愛知県豊橋市で

東三河の100人目標 ネットで全国販売計画

愛知県豊橋市東三河地方の農産物



農産物出荷額は2006年で田原市が全国の市町村で1位、豊橋市は同6位。平地が多く気候が温暖なことから盛んになり、青シソ生産が豊橋市で日本一のほか、サニールスや種なし巨峰は豊橋で開発された。田原市は電照橋やマスカメロン的一大産地として知られる。

る。